筑西市立明野図書館報　第423号　令和5年1月発行

花さき山

タイトル文字：滝平二郎

育児コンシェルジュ

毎週火曜日・木曜日

10:00～14:30

育児のお悩み相談が出来ます。
お子様にオススメの本も紹介します。

※専門スタッフが対応します。
※コロナの状況によって中止になる場合もあります。

大人向け映画会

場所：明野図書館　視聴覚室
日時：１月２９日（日）
　　１０：００～１１：４０
内容：「幕末相棒伝」
　　（上映時間：約１００分）
対象：先着１０名
申込：１月１７日（火）
　　～１月２７日（金）
　　電話または窓口にて受付

ふゆのほん

場所：明野図書館　特設コーナー
内容：育児コンシェルジュがおすすめする冬に読みたい児童書や絵本のコーナーです。
ぜひご覧ください。

明野大明神

場所：明野図書館　特設コーナー
日時：1 月 5 日(木)～
　　絵馬が無くなり次第終了します。
内容：今年の抱負や願い事を絵馬に書いて明野大明神の鳥居に飾ってみませんか？
　　今年はおみくじも用意してありますのでぜひご来館ください♪

フィーチャー Feature

スタッフおすすめコーナー
1月のテーマは
「日本全国ご当地ツアー」

1 月は日本の伝統文化を感じる行事がたくさんありますよね！
日本各地の名所やグルメ・文化など、日本の良さを再発見できる本を集めました。ぜひご覧ください。

何かに追いかけられて……

小島　毅

激動の昭和は、焦土と化した国土の復興から立ち上がるためのなりふり構わぬ経済活動に皆が邁進した時代だった。価値観の転換や経済の立て直しなど、律儀で勤勉な国民性は、敗戦から 10 年目の 1955（昭和 30）年に国内総生産は、戦前の水準を上回り、戦後復興期から高度成長期へと歩みを進めるに至った。会社のためになりふり構わず、家庭や個人を犠牲にして働く男たちがもてはやされた時代だった。

さて、平成・令和と時代は多くの問題を抱えながら、漂い流れている。低成長が長く続き、社会の中で経済のかじ取りを担うような大きな会社が、企業倫理に反するような不祥事を起こし、その隠ぺいなど社会問題にもなった。労働力不足も一向に改善されず、価格競争のはてに、労働者にとって職場環境は過酷になっていく。販売価格を低く抑えれば抑えるほど、労働者の賃金が抑制されてしまう。世界の平和や社会の安定が、経済社会の目指す方向ならば、共存共栄の実現に向けて歩む社会を構築しなければならない。

花が最も美しい時を迎えたときから、すでに美しさは滅びの予感を漂わせ凋落の坂道を下り始める。果てのない競争社会の中で私たちは時にストレスを抱え、時にひと時の幸せに生きる喜びを感じながら生きている。

いつも何かに追われているような焦燥感がある。それは、社会そのものが時間の中を漂流する小舟のように揺られ流動しているからなのだろう。

NHK 世論調査によれば、平成の時代は「戦争がなく平和な時代」だと 79％の人が回答している。世界全体を眺めれば、いつもどこかで戦争の火種がくすぶっているのだが、とりあえず「日本では」という条件付きの回答なのだろう。しかし、一方では、「社会的弱者にやさしい社会」と回答した人は 3 パーセントだった。平和であるけれども、余裕のない、生きづらい社会の存在があることを私たちは忘れてはならない。「幸せ」感も、私的で「囲い込み」の幸せではなく、多くの人が享受できる「幸せ」でなければ健全な社会とは言えない。何かに追いかけられるような焦燥感の漂う社会は生きづらい社会である。人間の英知は努力し、軌道修正をする力を持っている。「自己責任」という言葉が、他者を切り捨てるための言葉ではなく、「権利」や「義務」を支える大切なキーワードとなるような社会が望ましい。

令和の時代が穏やかで、やさしい社会であることを願いたい。

おじま　たけし／社会福祉士